

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	黒田 智隆		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	社会の中で通用する表現力やコミュニケーション能力の育成		
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コメントペーパーやレポート・論文等の書き方に関する基礎的・基本的事項を理解し説明できるようになる。</li> <li>2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。</li> <li>3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。</li> <li>4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。</li> <li>5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>中間レポート: 「課題」を課し、授業で学習した内容に沿ってレポートを提出する。</p> <p>期末レポート: 各自が選んだテーマについてのレポートを提出する。</p> <p>授業進度に沿った小中レポートの提出を求める。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 坂東実子『大学生のための文章表現練習帳』国書刊行会、2021 (2021 第2版第2刷)。</p> <p>【プリント教材】 授業内でプリントを配付する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コメントペーパーやレポート・論文等の書き方に関する基礎的・基本的事項を理解しているか。</li> <li>2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 積極的態度 (発言、討議、発表、取り組み等) 総合点の40%</li> <li>2 レポート (小課題・コメントペーパー等を含む) 総合点の60%</li> </ol> <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>自分の考えを文章で表現することの楽しさを知り、文章力向上を目指しましょう。</p> <p>以下の点には注意してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 欠席、遅刻、早退などせず、真面目に参加すること。</li> <li>2) 提出物、宿題は必ず提出すること。</li> <li>3) ノートを一冊用意 (表紙に氏名明記) すること。</li> <li>4) 教科書、配付プリント、ノートは毎回必ず持参すること</li> <li>5) わからないことは、担当教員に必ず質問、確認をすることまた、レポートの書き方は、授業の時だけでなく社会に出てから書くことになる企画書や報告書の基礎となります。そのようなレポートの書き方について学ぶ科目ですので、心して臨んでください。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	初回授業時に告示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	科目のガイダンス (シラバス、授業の進め方) 自己紹介文を作成し、発表する。文章を論理的につなぐ基本を学習する。	事前学習	自己紹介がなぜ必要か、考えをまとめておく。
		事後学習	作成した自己紹介文を見直す。 レポート①「自己紹介文」を作成する。
第2回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』pp. 12～19を解説する。常体・敬体の区別を学習する。	事前学習	教科書 pp. 12～15を読み、問題を解く。
		事後学習	文章によって常体・敬体を使い分けるときの注意点を整理しておく。 レポート②「私の故郷」を作成する。
第3回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』pp. 26～31を解説する。客観・主観を意識する。論文の構成や段落の分け方を学習する。 紹介文1を作成する。	事前学習	教科書 p26～p30を読み、考えをまとめる。
		事後学習	論文の構成・段落の分け方について整理しておく。 レポート③「私の好きなこと・好きなもの」作成する。

第4回	話し言葉と書き言葉の違いを学習する。事実と意見の違いを学習する。 教科書『大学生のための文章表現練習帳』p32～p37を解説する。紹介文2を作成する。	事前学習	話し言葉と書き言葉を日常会話や普段読んでいる本から探してくる。
		事後学習	教科書の代表的な話し言葉と書き言葉を覚える。事実と意見に注意して文章を書けるようにする。
第5回	文章の要約の仕方と、教科書『大学生のための文章表現練習帳』p38～p43を解説する。要約文と意見文について学習する。わかりやすく相手に伝え、説得力がある文章の書き方を学習する。 意見文1を作成する。	事前学習	高校生のときに学んだ小論文の書き方の復習しておく。
		事後学習	要約文、意見文についての学習内容を復習する。
第6回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』p44～p52を解説する。要約文と意見文の課題を出す。前回学習した内容をふまえて書く。 意見文2を作成する。	事前学習	前回の学習内容を復習しておく。
		事後学習	説得力がある文章が書けたかどうか自己点検する。また意見文の構成を捉えられたかを確認する。
第7回	プレゼンテーションについて学習する。原稿の作り方、口頭発表の仕方、非言語の役割について学習する。広告文を作成し、プレゼンテーションを行う。教科書『大学生のための文章表現練習帳』p53～p58を解説する。	事前学習	対話するときに、どこに注目しているか各自考えてくる。身近にある広告文を調べてくる。
		事後学習	対話するときに、どこに注目しているか各自考え、まとめる。
第8回	広告文を作成し、プレゼンテーションを行う。	事前学習	身近にある広告文を調べてくる。
		事後学習	よりよいプレゼンをするためには、どこに注意すればよいか、振り返る。
第9回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』p85～97を解説する。敬語について学習する。 手紙を書く。	事前学習	敬語を使う場面をまとめてくる。
		事後学習	敬語の機能と使い方について、復習する。メールの書き方や場面における使い分けなど、実生活で役立てられるようにする。
第10回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』p58～p63を解説する。Before/afterの文章1を作成する。	事前学習	教科書 p58～p63 を読んでおく。
		事後学習	〇〇をする前と後の変化の捉えかたを確認する。
第11回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』p64～p69を解説する。Before/afterの文章2を作成する。	事前学習	教科書 p64～p69 を読んでおく。
		事後学習	〇〇をする前と後の変化の捉えかたを確認する。
第12回	エッセイを書く。主題を見つけエッセイを書く。 報道文を書く。 ニュース記事を書く。	事前学習	配布資料を読み、エッセイの素材を集める。また配布資料を読み、報道文の基本を押さえる。
		事後学習	エッセイや報道文の基本を押さえる。
第13回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』p70～p77を解説する。対立項と時間軸のある文章を作成する。	事前学習	文章の構成や説得力を中心に考えておく。
		事後学習	文章の構成や説得力を中心にレポート作成ができたかを確認する。
第14回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』p78～p84を解説する。	事前学習	教科書 p78～p84 を読んで、題材を絞っておく。
		事後学習	応用編の意図しているところを理解できたか確認する。
第15回	文章表現のまとめ 最終レポート。この授業を受講した結果、文章力がどのように変化していったか、その過程を文章で説明する。	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、文章力の変化を確認する。
		事後学習	これまでの学習を生かし、大学のレポートの書き方を今後の学習に活かす。